

な か ま

福岡県知的障害者施設保護者会連合会 会報

発行
福岡県知的障害者
施設保護者会連合会
(略称：福施連)

編集
広報委員会

〒812-0854
福岡市博多区東月隈
3-1-4-106
☎/FAX(092)503-0579

3月18日・19日 全施連理事会

厚労省と意見交換

平成24年度全施連第3回理事会が3月18日・19日の2日間、東京都千代田区永田町の星陵会館で開催されました。

理事会開催に先立って衆議院第一議員会館地下大会議室で、厚労省障害福祉部障害保健課、伊藤孝司課長・障害保健課地域移行障害児保健室、阿萬哲也室長・精神障害保健課、富原博課長と民主党武内議員・大串議員のほか5名の同席のもとで意見交換が行われました。

その前に由岐理事長から田村厚生労働大臣あてのNPO法人リプロの虐待事件に対する抗議文を手渡ししました。

はじめに由岐理事長から請願4項目を詳しく理由づけしながら発言して解答を求めましたが、阿萬室長は、事前に配布されていた厚労省の作成資料を説明し、程度区分問題を含めて検討課題のみの解答でした。

南副理事長の「施設利用者の終の住処は今の制度でどこにあるのか」との質問に「ケアホームか入所施設がこれに当たると思われる」と曖昧な答えをしました。これに対する次の質問を求めましたが、

予定時間オーバーのため、初めての意見交換は、歯噛みしたい思いを残して終了しました。

国会開会中の意見交換会であったため厚労省側も多忙中で、設定時間は1時間であり、5名の民主党議員と出席出来なかった議員代理の秘書14名の自己紹介もあつて意見交換時間は圧縮されてしまいました。全施連理事・社員44名出席したこの意見交換会は一つの歴史となりました。

正・副理事長は再任

会費値上げ案は6月総会で

全国大会は札幌市

全施連

意見交換会後、近くの星陵会館に会場を移して14時半〜17時まで、翌日9時〜12時まで理事会が行われました。

6月11日・12日に開催される社員(代議員に改正する)総会の議題として役員改選や定款の改正、常任理事会設置の必要性継続審議、財政強化の会費値上げ問

題などを協議しました。

次に、今年度全施連大会の開催地である北海道支部理事から、大会準備の進捗状況の報告があり、道庁からの補助金を受けのが困難で、そのため利用者中心の前夜祭をやるので前泊して盛り上げてほしいとの要請もありました。

北海道支部の全施連組織は7地区111施設で会員4800人とのことで、広い地域と雪深い天候が多いので大会準備も大変なことだろうと推察されました。

その後、北から南へと各県の活動報告が行われましたが、保護者の高齢化で組織運営が厳しいとの意見も多く、請願活動報告はわずか2県で、飯塚市の4項目採択はやはり全国第1号であることがわかりました。

また、重要課題として、全施連はどの党か一党を支持する表明をするのか、しないのかについて意見が交わされました。結論は、知的障害者は貧富の差を問わず生まれるし、高齢化で認知症や事故などで身体障害者には誰もがなる可能性がある。あるので一党支持の表明は、組織崩壊につながることを確認しました。

これまで激しい意見対立が数回あった理事会でしたが、今回は同じ思いの絆で和気あいあいの空気に満ちた交流会になり、今後の結束力になると思われました。

全国大会へ福施連 81 名参加

— 奥副会長がシンポジスト —

平成 24 年 11 月 6 日、7 日の 2 日間、全国知的障害者施設家族会連合会の第 8 回国大会 in 大分が大分オアシスタワーホテルで開催されました。「みんなで拓こう！わが子らが安心して暮らせる未来、今何を、これから何をすべきか、家族会」のテーマで全国各地より 500 名が参加。福岡県から 81 名が参加しました。

開催前に「一般社団法人全国知的障害者施設家族会連合会」の会旗お披露目がありました。最初に大分県施設家族会連合会堀隆生会長の開会宣言に始まり由岐理事長より開会あいさつ。大分県知事・大分市長からの来賓祝辞が述べられました。

基調講演は、全施連の提言を踏まえ「新しい生活施設のあり方に関する提言」と題して、北九州市立大学小賀久教授がユーモアを交えた解りやすい言葉で話されました。内容は「施設否定論」とノーマライゼーション・新しい施設のあり方を考える際の留意点・新しい施設像と 3 点をテーマにした講演でした。

続いて「全施連が目指す施設像は、今まで入所施設の新設か、障害者総合支援法へ

の不満」と題し、小賀久教授・埼玉大学宗澤忠雄准教授・全施連南守副理事長・福施連奥昭義副会長 4 氏の意見発表や、会場からの質疑応答もあり 1 日目を終了しました。

2 日目は、由岐理事長より全施連提言の検討と取り組みや、一般社団法人化した知的障害者施設家族会連合会の設立等の 23 年度事業報告や、会計収支報告が行われました。

また 24 年度事業計画では「障害者総合支援法」は自立支援法の看板の掛け替えに過ぎないので、改正を求める運動に取り組んでいき、情勢認識の共有化に努めていくと力強く宣言されました。

休憩後、全員参加型討論会「きょうだいも家族」のテーマでシンポジストに河村真千子氏・山岸直子氏をきょうだい代表、木村三規子氏が親の立場で意見発表がありました。

保護者の高齢化や死亡によって、後見がきょうだいへ継がれている。親が託す思いを引き継ぐきょうだいの考えにギャップが！について熱く会場の参加者と共に苦悩や共感を語り合いました。

また、「吾輩はダウンである」の DVD を

鑑賞、コーディネーターの木村三規子著の「絆ノート」の紹介があり、終了後購入した参加者も多数みられました。

最後に 25 年 10 月 22 日、23 日の北海道大会「未知なる大地北海道」の幕のもと全施連旗が小野会長へ手渡されました。



全施連大分大会・「新しい生活施設のあり方」シンポジウム等に熱心に参加者

リプロの虐待事件 全施連とともに抗議

3 月 12 日付報道によると小郡市に本部がある NPO 法人「リプロ」の知的障害者への数件の虐待事件に対して、社団法人全施連由岐理事長と福施連八木会長連名でリプロ坂本勉理事長に抗議文を送りました。

抗議文全文は事務局ニュースに記載していますが、以前筑豊のカリタスで起きた熱湯コーヒー事件よりも悪質な、人権無視の虐待と言えそうです。

抗議文は福岡県障害者福祉課にも届けましたし、18 日には田村厚労省大臣宛のものを伊藤障害保健課長に由岐全施連理事長から手渡ししました。

腹に据えかねる事件だとの由岐理事長の言葉に、伊藤課長も「自分たちもそう思うので善処したい」と答えました。



義援金のご協力 ありがとうございました

平成 24 年度も東日本大震災の義援金の募集を福施連として行いましたが、3 月末で 24 万 570 円になっています。

日常を災害も受けず平穏に暮らしている私たちから、被災地の障害者施設仲間を思い、ささやかな気持ちのしるしとして寄せられた募金です。

ご協力ありがとうございました。
なお、まだ提供が遅れている保護者会はお届け下さいますようお願いいたします。

一応、昨年度残金と共に本部へ送りました。

利用者と保護者の高齢化問題について 研修会報告

平成25年2月23日
24年度第2回研修会が
クローバープラザで開
催されました。

今回は福岡県知的障
害者福祉協議会（福祉
協）と協賛開催となり、
福祉協の21施設から31
名、市会議員2名の出席
もあり、総数110名の
参加となりました。

今回のテーマは前回
に続き「利用者と保護者
の高齢化問題について」
全施連副理事長であり
さい園（高知市）施設長
南守氏に講演していた

いただきました。

◆講演のあらましは次のとおりです

私たち施設・家族は「ガラケー」です。
「ガラケー」とは日本の携帯のことで「ガ
ラパゴス携帯電話」と呼ばれています。

日本の携帯は独自の機能を進化させて
世界でも優れたものですが、世界的には
シェアが少なく、どんどん駆逐されてい
ます。つまり、我々の施設も家族も他の
施設と共通項目がなく、それぞれ独自に
進化してきました。

他の施設のことが分かり、家族がどん
なふうに考え、どんな活動をしているか、

自分の将来をどのようにしたいのかとい
う共通項目を持たないと大きな波になら
ない。まずニーズを明確にするため「新
しい生活施設のあり方提言」を読むこと。
皆さんは、今利用している施設に、う
ちの子にこういう生活をさせたいなど
をしっかり伝えてきましたか。ほとんどの
方はそんな事さえ考えていないのではと
思われます。それでは引き受ける施設も
困るでしょう。

そこで全施連としてニーズを明確にし
ようと3人の学者を交えて議論し、提言
をまとめましたが、これは一言でいえ



「家族と施設が家族のようになること
を望んでいる」という内容です。

◆あじさい園の高齢者対策

新事業体系移行の時、高齢者対策のた
め別館を建てました。それはターミナル
ケア、長期療養が出来る設備です。
ターミナルケア室には救急車が直接入
り、家族も宿泊出来ます。今は脳死状態
の利用者が1人います。職員体制は看護
師4名、内1人は救急救命士です。

このためにあじさい園では140%の
働きを求めているので、職員は大変な思
いもしています。基準通りの職員数では
利用者看取りは不可能だからです。

◆家族的つながりを求められるの
は入所施設

そのためには昼夜一体型施設が絶対必
要です。

家族会と福祉協の両輪でこの制度を変
えないと決して安堵できないのです。

理事会報告

平成25年3月31日(日)クローバー
プラザにて福祉連加入28団体中24団体が
参加して開催されました。

八木会長から直近の情勢として、3月
18日全施連理事会に先立ち、厚生労働省
と短時間ではあったが意見交換、南副理
事長が終の住処となりうるものが今の制

度のどこにあるのかとの質問に「入所施
設、ケアホームがこれに当たる」と曖昧
な答えがあったこと、また田村厚生大臣
宛リプロ虐待事件の抗議文を渡したこと
等の話がありました。

4月1日から「障害者総合支援法」が
実施されますが、私たちの運動が少しず
つ理解されつつあるとの嬉しい報告もあ
り、組織強化の必要性が痛感されました。
議事では北原副会長を議長に、多くの
個人・賛助会員の入会を確認し、それが
予算の収入増に大いに繋がったとの報告
がありました。

次に25年度定期総会議案として24年
度経過報告(重点取り組みの経過と反省)、
仮決算報告、25年度活動方針(重点取り
組み事項)、25年度行事、25年度予算(い
ずれも素案)について討議し承認されま
した。

また、全施連財政逼迫のため、新年度
予算から5万円の支援をしたいとの提案
がありました承されました。

東日本大震災義援金は昨年の残金とあ
わせすべて全施連本部へ送金済みです。
最後に各委員会分散会の報告がありま
した。

▼行政対策委↓各市町村への行政・議
員対策について▼組織委↓加入勧奨

▼広報委↓会報への投稿要請について
▼研修委↓25年度研修会予定について

施設保護者会紹介

生活支援センター

こすもす

大牟田市東南部に位置し、近くに小岱山を望む静かな環境の中にあります。

昭和 57 年 4 月、地域社会の中で家族とともに生活しながら本人の働きたい、親の働かせたいとの希望のもと、社会福祉法人あけぼの会の通所授産施設「大牟田授産センター」として発足し、主に委託・自主生産活動に取り組んできました。

平成 23 年 10 月、法人の新体系移行に伴い生活介護事業に取り組む生活支援セ



親子の旅行のひとつ

ンター「こすもす」へと事業・名称の変更を行いました。

以前は週 6 日の稼働でしたが、移行後は週 5 日になり、土曜日を家庭で過ごすことが多くなりました。

保護者会では子ども主体で、地域に密着した生活が送れるよう施設職員と連携しながら活動しています。

特にこの十数年は制度が目まぐるしく変わってきたので、親子一緒の合宿研修、他施設の見学、講師を招いた学習会等々を実施し勉強しています。

毎年 4 月に総会、11 月の櫛野祭いぢのまつりで不用品バザーを行い、年 3 回法人内の入所施設でのボランティア活動は今年で 12 年目を迎えます。子ども達が楽しみにしている親子旅行は、積み立てをして保護者会主催で関西、北海道、沖縄、東北と隔年毎にダイナミックに行っています。

自慢商品

蓮の実園 八女茶

八女市にある蓮の実園では、お茶、椎茸、野菜の栽培を行っています。

その中でも一番力を入れているのがお茶の栽培です。利用者が毎年 5 月の青空のもと、笑顔でお茶摘みします

煎茶、伝統的な手法であるスマキを掛

けて育て、手摘みにこだわっている玉露。そしてこれらのお茶は、蓮の実園の敷地にある製茶工場加工され、商品化されています。味はとろりと甘く香りも楽しめます。

昨年 7 月の九州北部豪雨にも負けず、皆元気に頑張りました今年も新茶ができます。



お問い合わせは 蓮の実園へ
100g / 玉露 1,000 円・煎茶 700 円
☎0943-54-3123

組織の大切さがわかり

出た元氣！

有明ホーム 橋本 久恵

大分で開催された全施設連大会に初めて参加しました。

一日目は終の住処の生活施設で素晴らしい設備のあるものが高知県に出来たと聞き、お！お！と叫びたくなる嬉しさを感じ、わが子にもそんな施設が欲しいと思いました。

二日目のシンポジウムできょうだいの

本音の声として「きょうだいは親の代わりは出来ない」との発言にそうかな？とは思いましたが、私の長女は親の想いをよく汲み取って支えてくれる娘です。

私は今 82 歳、長男と次女を市内の施設に入所させていますが、長女は遠い広島に嫁ぎわが子 4 人を育てながら、施設で暮らす弟・妹の帰省にあわせてやってきては、二人を街や動物園などに連れて行ってくれます。

この長女に私は親としても感謝・感謝の気持ちで暮らしているのです。

大会に参加して改めて組織の力の大切さと、親は我が子たちに元気をもらっていることを忘れないで、笑顔で暮らしていけるように願い、頑張らねばと強く思いました。

編集後記

「なかま」を会員の皆様に全文読んで戴くために、編集委員一同 4 回の編集会議で四苦八苦しながら作っています。

内容によって皆様に原稿をお願いすることが多くありますが、頂いた原稿は割付の都合で削減したり趣旨を変えないよう修正することをご了承下さい。

、や。も一字です。4〜5 行で行替えないと読みづらくなります

会員一同の心をつなぐ「なかま」でありたいと願っています。乞うご協力を！